



# バン格拉デシュに恋して

私たちにあまり馴染みのない南アジアの国、  
バン格拉デシュを紹介します。

vol.4



## 【独立記念日とサッカー親善試合】

2014年12月16日午前0時、ダッカの街に二斉に花火が打ち上げられました。43回目の独立記念日です。夜中だと言うのに通りは人でごった返し、民族音楽がこれでもかと言う位鳴り響いています。翌朝目が覚めると、私はいつものようにホテル前の定位置に腰を下ろしました。通りを行く人々は皆バン格拉デシュ国旗を振っています。国旗売りの青年達の姿も見えます。彼らは私を見て言いました。「俺たちの国もきっと日本みたいに素晴らしい国になるからな。」  
「Good luck!!」私達は笑いながらハイタッチをしました。

独立記念日の次の日からダッカの街の様子は一変しました。道行く大半の男性が私に声を掛けます。「Enjoy

football game!」日本サッカーアンダー21がバン格拉デシュナショナルチームと親善試合を行う為にバン格拉デシュ入りした事が娯楽の少ないこの国では大事件になっています。19日の試合では3-0で日本が勝利しましたが、バン格拉デシュの観客は日本のゴールが決まる度にジャパン、ジャパンと大歓声と拍手を惜しみませんでした。試合が終わりスタジアムを出ると物乞いの子どもや老人に囲まれ一瞬にして現実に引き戻されてしまいました。その中の一人の男の子が「あなたは日本人なの？日本人ってかっこいいね！」とウインクしてくれました。

私もウインクを返しながら日本人としてかっこよく生きていきたいなと胸に刻んだ忘れられない出来事でした。



独立記念日の花火  
(筆者撮影)



サッカースタジアム(筆者撮影)  
完全なるアウェー状態



I LOVE BANGLADESH  
(友人カメラマンAyon Das撮影)

鶴田 素子さん

八代市のローズマリー紅茶店オーナー。50歳で大学院に再入学し、開発経済学を専攻。途上国の貧困削減のためフェアトレードを推進する。

ご感想お待ちしております!

[info@uki-pre.net](mailto:info@uki-pre.net)